

大阪湾の人工島「夢洲」上陸

最初の写真は、昨秋に大阪府咲洲庁舎のあるコスモタワー展望室から撮った夢洲全景。年初に夢洲上陸を試みたが、残念ながら「失敗」した。バスで夢洲に向ったが、夢洲で止まらず、右端に見える舞洲に行ってしまった。凍てつくなか、舞洲から夢洲を眺めた。あとから聞くと、夢洲を視察するには、大阪市港湾局の



「許可」が必要とのことだった。次の写真は大阪市「夢洲の都市計画変更素案について」から。このパブリックコメントに「意見」したので、また紹介したい。

5月11日午前9時に地下鉄コスモスクエア駅に集合し、車に分乗して夢洲に向かった。夢洲視察を企画・案内したのは、大阪自然環境保全協会（ネイチャーおおさか）の皆さんである。



先月末、ここで愛知万博の環境アセスメントの経験



を話したことから、視察のメンバーに加えてもらった。ネイチャーおおさかの皆さんに感謝。大阪に来て、やっと万博に正面から向き合う環境団体にアプローチできた。

夢咲トンネルを抜けると、そこは夢洲だ。道路にはダンプやトレーラーが行き交うが、土曜日なので、平日と比べると車はかなり少ない。平日は大きな車両に挟まれて、運転するのも怖いという。それでも埃が多く、炎天下で日陰もなく、なんだか喉の調子が変わる。こんなところで万博とは？ でも、水辺の鳥を眺めていると、気分的にほっとする。

ここは鳥の繁殖地になっている。大阪湾に残された「生物多様性の重要なホットスポット」である夢洲の自然を、カジノや万博なんかで開発していいのだろうか。愛知万博の当初の会場予定地「海上の森」を思い起こす。

じつは夢洲に上陸するまでは、こんな重要なホットスポットとは思っていなかった。災害リスクやカジノと隣り合わせの大阪万博に対して、疑問を投げかけてきた。それにプラスして、夢洲は大阪湾に残された（つくられてきた）数少ない貴重な場所で、イベント型開発を進めることに大いに疑問を感じた。夢洲にはソーラーパネルが並んでおり、大阪ひかりの森と案内されていた。大阪万博と夢洲については、まだ語ることは多い。

(2019年5月13日)